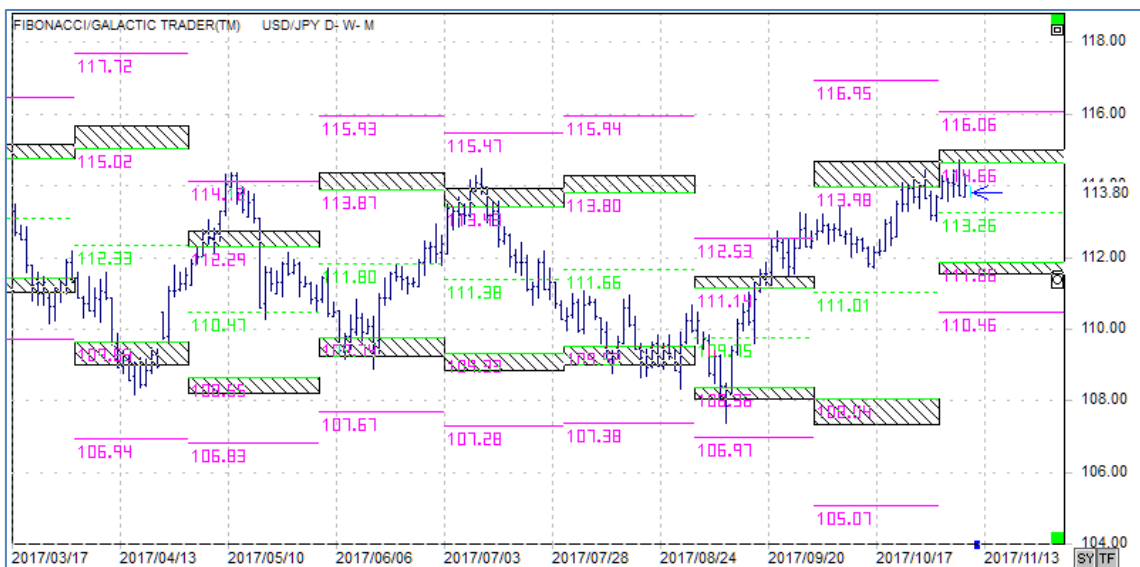


## 確率を味方につけるループイフダン戦略

「確率を味方につけるループイフダン戦略」とは月間のフィボナッチ・ピボットを用いたループイフダン戦略のことです。以下に、この戦略の概要について説明します。

### (1) フィボナッチ・ピボットとは

まず、日足バーチャートに月間のフィボナッチ・ピボットを表示したチャートをご覧ください。



通常のピボットとフィボナッチ・ピボットとの違いは、後者は各水準が等間隔で以下のような計算式で求められるだけで考え方は同じです。右横に上記チャートにおける各水準の色を示しました。

レジスタンス2	$R2 = BP + (H - L) * 1.0$	ピンク
レジスタンス1	$R1 = BP + (H - L) * 0.5$	黄緑
ピボット	$P = (H + L + C) / 3$	黄緑点線
サポート1	$S1 = BP - (H - L) * 0.5$	黄緑
サポート2	$S2 = BP - (H - L) * 1.0$	ピンク

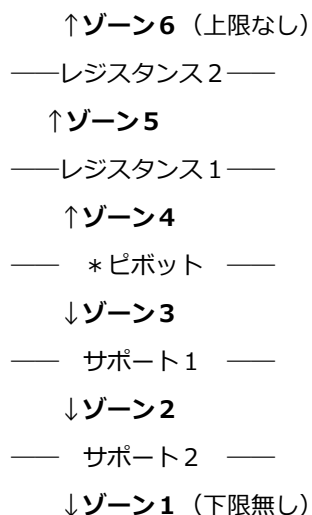
斜線で示してあるゾーンは、サポート、レジスタンスの水準に 0.618 を加え、0.5~0.618 をゾーンとして示しているもので、ここからフィボナッチ・ピボットという名称がついています。ただ、今回はシンプルに上記の各水準から考えます

次に、チャートを見るとわかりますが、多くの月において前月の月間フィボナッチ・ピボットのサポート1とレジスタンス1が月間レンジの上限下限となりやすいことが確認できるかと思えます。

稀にサポート2とレジスタンス2まで行くことはありますが、2へ到達すること自体が稀なケースであり、さらに同水準を抜けて行くような動きは大相場の時のみと言っても差し支えありません。しかもある程度、それは予想することも可能なのです。

## (2) フィボナッチ・ピボットとゾーン

月間フィボナッチ・ピボットでは更に以下のように各水準の間をゾーンとして捉えることが可能です。



このゾーンは前月の引けがどのゾーンだったのか(月末の終値で判断)、当月の始まりがどのゾーンなのか(月初の始値で判断)を考えることで一定の傾向が見えてきます。

組み合わせとしては、終値と初めのそれぞれ6通りで36通りの組み合わせとなりますが、実際には月末と月初の間が週末と重なり、ギャップアップ、ギャップダウンで始まらない限り当月の始まりはゾーン3とゾーン4に限られますので、実質的には12通りの組み合わせを考えます。

## (3) 組み合わせと戦略

この12通りの組み合わせにおける傾向ですが、おおよそ以下のような傾向が見られます。

・前月の終値がゾーン2～5で当月の始まりがゾーン3の場合、ピボットに寄せていく上昇の動きが観察される。

・前月の終値がゾーン2～4で当月の始まりがゾーン4の場合、ピボットに寄せていく下降の動きが観察される（前月の終値が5の場合もどちらかというと同じ傾向）。

・前月の終値が1・6の場合、1ならば下降トレンドを継続しやすく、6ならば上昇トレンドを継続しやすい。

つまり、ピボットに寄せていく動きを想定する場合には、もみあい为前提とした逆張り戦略を立てることが出来、トレンドを継続する動きを考える時には方向性としては順張りの戦略を立てることが出来ます。

#### 逆張り戦略（もみあい）

\*ゾーン2～5の引け、かつゾーン4で始まる場合＝ 上がっていくところを「売り」

\*ゾーン2～5の引け、かつゾーン3で始まる場合＝ 下がっていくところを「買い」

#### 順張り戦略（トレンド）

\*ゾーン1の引けの場合＝トレンド継続を考えた 戻り「売り」

\*ゾーン6の引けの場合＝トレンド継続を考えた 押し目「買い」

なお、過去を振り返るとどのケースでも思惑と異なる動きとなることも当然あります。その場合には以下のように考えるとよいでしょう。

資金に余裕のある場合には、翌月の月初のパターンから判断し、同じ戦略であるならば継続する。逆に資金に余裕のない場合には、自身の証拠金残高との兼ね合い（10%減少したらやめる等）で考えることがよさそうです。

なお、この戦略単独でも十分に効果を得やすいのですが、現在使っているテクニカル指標などの戦略をメインにしなが、補助的に使うと一層効果を高めることが出来ると思います。